

# 普天間飛行場の跡地を考える若手の会 国営沖縄記念公園視察会

---

1. 視察会の概要 .....	1
2. 視察会（講義）の要旨 .....	4
3. 視察会の様子 .....	6
4. 若手の会における視察成果のとりまとめ .....	15

---



平成18年9月23日(土)

# 1. 視察会の概要

## (1) 視察会の目的

視察会は、以下の目的を持って実施した。






**目的1：公園の規模及び国営公園として整備されている各施設を体感する。**

- ・普天間飛行場跡地利用基本方針では、大規模な(仮)普天間公園の整備が位置づけられており、その規模について、県の広域緑地計画では、100ha 規模のものとして計画されている。そのため、視察会では、県内における大規模公園（国営沖縄記念公園の開設面積は約 71.6ha、都市計画決定面積は約 77ha）を体感し、100ha という規模がどのくらいのものなのかを把握するため、北ゲート周辺から南ゲート周辺まで公園内を広く見学した。

**目的2：(仮)普天間公園整備に係る議論に先駆け、「国営公園としての整備の経緯」や「周辺地域への影響、経済効果」、「公園管理の実態」等を把握する。**

- ・(仮)普天間公園については、大規模軍用地の返還記念、沖縄の振興、公園緑地整備水準の向上などの多様な意義を踏まえて、国、沖縄県、宜野湾市が連携し、地権者の意向、優れた環境づくりなどに配慮して計画づくりに取り組むこととされており、今後国営公園としての整備を要請していくことが考えられる。そのため、視察会では、国営公園としての整備を今後要請していくにあたり、地元として何を議論し、考えていけばよいかを考える上での参考とするため、**沖縄記念公園において国営公園として閣議決定に至った経緯や、それまでの地元の取り組み事項、公園の現状等を把握した。**
- ・(仮)普天間公園については、広域における防災性はもとより、跡地の魅力を高め、産業、高次都市機能の導入を促進する効果などにも期待がよせられている。そのため、視察会では、**国営公園整備に伴い周辺地域への影響（地域活性化、周辺における企業立地等）がどの程度あったか等**について把握した。
- ・また、国営公園には、様々な利用に対応できる高度で多彩な施設があるとともに、各施設においても、利用者が常に快適な公園を楽しめるように、きめの細かい維持管理が行われている。管理運営面は、我々が日常的に利用している市営公園等と大きく異なる点である。そのため、視察会では、**公園管理の実態やそれににかかる費用、地元雇用の状況等**について把握した。

## (2) 視察会の行程

時間	当日の流れ	内容
9/23 (土) AM9:50	宜野湾市役所駐車場集合 ↓	バス移動 
PM 0:00	国営沖縄記念公園到着 ↓	昼食 (弁当) 
PM 1:30	講 義 ↓	国営沖縄記念公園事務所、海洋博覧会記念公園管理財団 <<講義の内容>>  ◆国営公園としての整備の経緯 ◆公園管理の実態 ◆公園整備の効果(周辺への影響等) 等
PM2:30	公園見学 ↓	公園の大きさ(約 71.6ha)や公園施設の体感。 ◆沖縄美ら海水族館 ◆熱帯ドリームセンター、遠見台 ◆植物管理センター 等
PM4:30	公園出発 ↓	
PM4:40	備瀬ふくぎ並木見学 ↓	
PM5:10	備瀬ふくぎ並木出発 ↓	
PM7:00	宜野湾市役所到着	解散 

### (3) 参加者名簿

	所 属・役 職	氏 名	備 考
1	普天間飛行場の跡地を考える若手の会会長	大 川 正 彦	野 嵩
2	普天間飛行場の跡地を考える若手の会副会長	呉 屋 力	喜友名
3	普天間飛行場の跡地を考える若手の会	末 吉 良 光	大 山
4	普天間飛行場の跡地を考える若手の会	佐喜眞 淳	新 城
5	普天間飛行場の跡地を考える若手の会	新 城 智 宏	新 城
6	普天間飛行場の跡地を考える若手の会	呉 屋 栄 治	喜友名
7	普天間飛行場の跡地を考える若手の会	宮 城 武	野 嵩
8	普天間飛行場の跡地を考える若手の会	宮 城 敏 彦	神 山
9	普天間飛行場の跡地を考える若手の会	又 吉 建 栄	伊 佐
10	宜野湾市軍用地等地主会副会長	又 吉 信 一	
11	宜野湾市軍用地等地主会	又 吉 真由美	
12	宜野湾市軍用地等地主会	仲 村 千 夏	
13	沖縄国際大学教授	石 原 昌 家	関係地権者等の意向醸成・活動推進調査検討委員会委員長
14	宜野湾市基地政策部基地跡地対策課課長	和 田 敬 悟	
15	宜野湾市基地政策部基地跡地対策課係長	又 吉 直 広	
16	宜野湾市基地政策部基地跡地対策課主事	塩 川 浩 志	
17	昭和株式会社	安 藤 彰 二	
18	昭和株式会社	板 倉 慎	
19	昭和株式会社	立 山 善 宏	
20	昭和株式会社	武 田 智 和	
21	昭和株式会社	雨 宮 知 宏	

## 2. 視察会（講義）の要旨

### （1）「国営公園としての整備の経緯及び現状」について

- ◆国営公園には、複数の県を跨り 2～3 時間ぐらいかけて、車や電車を乗り継いで日帰りコースで楽しむという、大規模公園の延長線にある「イ号公園」と、国の記念事業、国としてやらなければならないという閣議決定に基づいて整備する「ロ号公園」というのがある。沖縄記念公園は、沖縄復帰ということでの海洋博覧会、復帰事業としての首里城ということで、閣議決定に基づき、国としての責任で整備している公園である。
- ◆海洋博記念公園は、昭和 50 年 7 月 15 日に、沖縄県国際海洋博覧会を記念する公園の設置として閣議決定している。海洋博覧会自体が一過性のものであるため、公園として国が継続的に管理し、必要な設備投資を続けることにより国民のニーズに添えていくとうものである。
- ◆閣議決定という言葉が頻繁に出てくるが、これは簡単にできるものではない。実際に「90km も離れた 2 つの公園を国営の 1 つの公園にするのは難しいのではないか」という意見もあったが、地元の強い意向があって認められたというのがある。首里城に関して、首里社構想というものに沖縄県がずっと力を入れており、費用面や管理運営面を含めて誰がやるのが一番良いのかということが検討されていながら、地元の熱意で、当時の沖縄開発庁を動かして国の事業にしてもらったというのがある。国営公園の閣議決定は自然発生的に生まれるものではなく、地域で合理的な理論に基づくビジョンをつくり、市民・県民の意見をもらいながら長い道のりをかけてやっていくものである。
- ◆沖縄に来る観光客の立ち寄り先の 1 位が国際通り、2 位に首里城、3 位に海洋博公園ということになっている。2 位と 3 位にこの公園が入っているということは、それだけの努力をしてきたし、今でも続けているからであり、偶然ではないと捉えている。
- ◆また、沖縄に来たから公園に寄るのか、公園施設があるから沖縄に来るのかということがあって、整備する側としてはやはり沖縄に来る目的として公園が存在していると思っている。琉球王国の歴史文化や、沖縄の自然・亜熱帯的な植物や水生動物があることが誇りでもあり、いかにお客様に満足していただけるかということで整備・管理・運営できているとも思っている。
- ◆設備投資をした後に、利用者のピークは来るが徐々に下がってくる。新しい投資をしないとリピーターを確保しづらいというのがある。そのような中、沖縄記念公園では、来訪者が減り始めた 1983 年頃に、再度ピークをつくるため、熱帯ドリームセンターを整備（開園 10 年目の 1986 年）した。これによって 1989 年には 207 万人まで増たが、それ以降また下り坂になってしまった。次に 2002 年、2003 年と増やしたのが美ら海水族館のオープンである。これも 1 年、2 年でできるのではなく、それこそ 10 年近い構想でやっとオープンさせたものである。

- ◆しかし、水族館もただ建物をつくれればお客さんが来るというのは大きな間違いであり、世界で初めてジンバイザメの飼育を成功させた飼育技術や、より新しい建築技術の施設が融合して、繁殖という世界で誰もやっていないような展示空間ができないかというコンセプトのもとに、これだけの水族館をつくっており、それが世界に誇れる理由だと思っている。今の技術水準をさらに高めていくという発想を持たないと、器だけそろえても中身が伴わないので、何か作ればお客さんが来るというようなものではない。

## (2) 「公園管理の実態」について

- ◆国営公園として管理をいかに充実させていくか、お客様へのサービス、ニーズにいかに対応していくのが求められ、そのための組織が必要ということで海洋博覧会記念公園管理財団が設けられ、公園の管理を一元的に行っている。
- ◆財団の主な事業としては、亜熱帯性動植物に関する調査研究及び技術開発・知識の普及啓蒙、首里城に関する調査研究および知識の啓蒙、首里城に関する展示資料の収集等を行う首里城基金の造成・管理及び運営、国営沖縄記念公園等の維持管理業務の受託などがある。
- ◆平成 17 年度の公園の維持管理費はトータルで 16 億 4500 万円であり、海洋博地区が 14 億 6900 万、首里城地区が 7,600 万である。主な管理費としては、植物管理費が 2 億 4000 万、建物維持管理費が 2 億 3700 万、人件費が 3 億 9700 万となっている。また、水族館事業においては、平成 17 年度の収入が 32 億 400 万円、支出が 30 億 2200 万円となっている。
- ◆従業員については、植物関係で 89 名、建物工作物維持清掃で 123 名、警備案内で 29 名、財団の職員で 326 名、トータルとして 569 名が常時働いているという状況である。

## (3) 「周辺地域への影響、経済効果」等について

- ◆公園整備により、関連する上下水道・道路・ダム等の関連公共施設やホテル等の民間施設が誘発されている。公園という一つの事業がさまざまな効果を生み出し、インフラや地域経済の変革・雇用創出という、地域の振興に置き換わっており、また、このように地域の基盤が出来上がるということこそが公園整備の狙いでもある。
- ◆昨年度実施したアンケート調査では、海洋博公園来園者の一人当たり消費額は 28,676 円と集計され、この消費額に海洋博公園来園者数 258 万人を乗じると、北部地域の観光消費額は 740 億円と推計される。すなわち 740 億円の消費支出を海洋博公園が誘発していることとなる。
- ◆公園管理などにおいては、業者に発注しているものもあり、約 10 億円が北部圏域に出ている。

### 3. 視察会の様子

バス車内



大川会長あいさつ



和田課長あいさつ



石原先生あいさつ

**講義前**



屋食を取った噴水広場



噴水広場から講義会場への移動



講義会場のイベントホール



**講義**

講義をしていただいた後藤和夫 公園事務所長、花城良廣 財団本部長、海洋博公園管理センター長（右から）



講義中の様子



若手の会からの質問の様子



**講義②**



若手の会からの質問の様子



若手の会からの質問の様子



大川会長お礼のあいさつ

美ら海水族館見学

水族館入館前



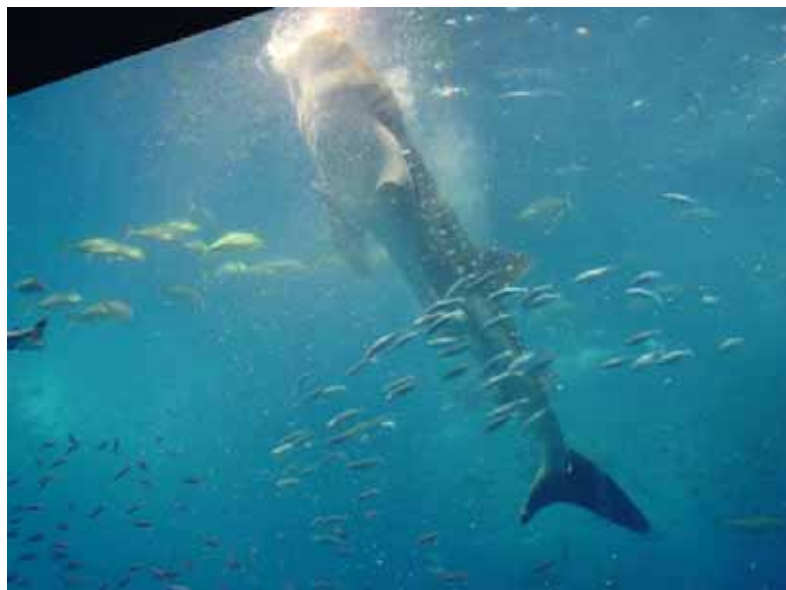
水族館見学



水族館見学



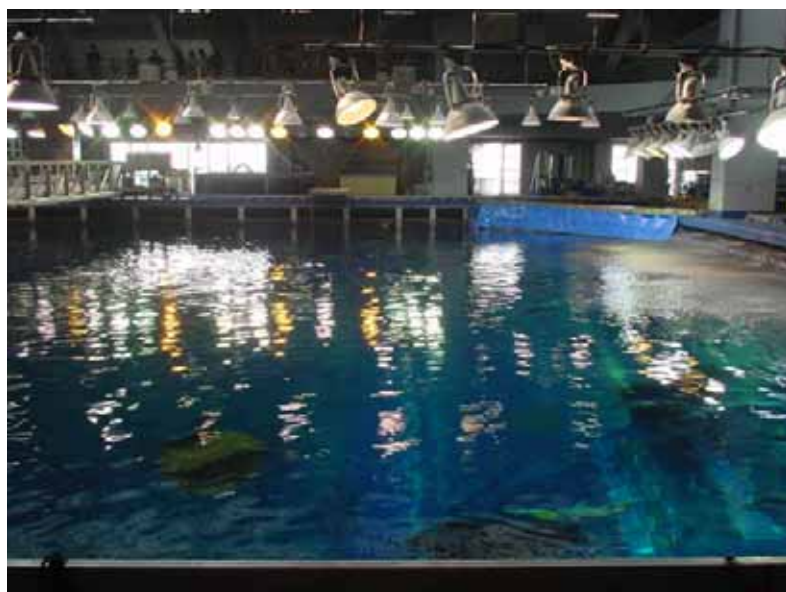
美ら海水族館見学②



立ち泳ぎで餌を食べるジンベエザメ



世界最大の水槽の上部



世界最大の水槽の上部

## 熱帯ドリームセンター



熱帯ドリームセンター入口での説明



熱帯ドリームセンター見学



熱帯ドリームセンター見学

**植物園**



バス車内からの植物園見学



植物管理センター見学



植物管理センター見学

**備瀬ふくぎ並木**

**ふくぎ並木見学**



**ふくぎ並木の牛車**



4. 若手の会における調整成果のとりまとめ

今後の（仮）普天間公園の検討に向けて～国営沖縄記念公園視察会を踏まえた「普天間飛行場の跡地を考える若手の会」からの6つの意見～

平成 18年 11月 14日

**魅力的な公園の整備は、地域振興  
といった意味からも効果的である！**

**（仮）普天間公園を整備し、魅力的な公園として持続させるためには、  
十分な管理と常に新しい取り組み、技術が必要である！**

雇用をはじめ、地元（北部）や沖縄県の振興に与えている影響が大きい。

地元での雇用が多く、従業員約45%を若い世代で占めていることが印象に残った。

公園の整備や運営の方法によっては、地元へ与える経済効果が大きいことが分かった。

沖縄県公園が沖縄県の観光産業を牽引しており、役割の大きさを実感して学ぶことができた。

国営公園という特性及び歴史から、30年という歴史があり、管理運営がキツチリされているという印象が残った。

公園管理については、多くの人々の「知恵」と「技術」を要するものであり、単純なコストではないというのが強く印象に残った。

施設・設備だけが公園内全体をきれいにしていない。

沖縄県公園は、ソフベイサマの繁華等の世界初というノウハウを持っていて、強みである。

何年か一度入園者が数が増える時期があるが、その後には訪れる人が減ってしまっていることを見た。

**公園の使い方を合せて、100haという規模の必要性を考える必要がある！**

本当に100ha規模の公園が必要なのかと感じました。

77haという規模の大きさを気味で感じたが、利用者が水泳館に偏っていた。（仮）普天間公園を100ha規模のものにするとしても、そこで何を考える必要がある。海洋博公園は今考えれば水泳館だけでも良かったのではないかと感じる。

海洋博のような大きな施設でも、その運営は楽ではないことが分かった。

沖縄の一番の特徴に国際的な気候があり、ハーブ等を選んで健康・癒しを体験、学習でき、民間も参画できるようなことも考える必要がある。全部を国におんぶに担いでではなく、公園だけで赤字を出さくらひの勢いが必要だと感じる。

海洋博公園に行っても、普天間は歩かないところまで案内してもらい、改めて（仮）普天間公園の規模の大きさを感ずることができた。

実際に視察に行った人の意見はレベルが高い、見ることの大きさを改めて確認した。

**民間を参画させるなど、公園運営の方法を考えていく必要がある！**

**今後も積極的に視察を行い、学びを  
体感しながらレベルアップしていきたい！**

**普天間飛行場、その緑 歴史と共に持続性を築けることが、（仮）普天間公園の園舎化に向けて、普天間飛行場の特色を、デザインを確立し、地元が元気に振返っていく必要がある！**

**普天間飛行場の特色出し、デザインづくりが必要である！**

**パピールの方法を考える必要がある！**

経済的な理由だけで園遊公園にするのは無理という印象を受けた。普里城公園、海洋博公園ともに特徴があり、普天間でも特徴を出していけないと園遊化は困難であると思う。

講義を聞いて、園遊化は実現可能であると受け止めた。どのような事業を持っていくかがポイントであり、若手の会でも園遊化を目指して議論、検討をし、実現できるようにしたい。

園遊公園化が難しいことを実感したと同時に、園遊化のためにやるべきことが明確になったと思う。（地域でビジョンを確立し、県に訴え「県のビジョン」にする）

沖縄といえば琉球、異文化であるが、普天間といえば琉球のものがない、緑で溢れ合っているというイメージを出したい。具志川では、海が山の中まで溢れ合っているところがあり、このような発想も必要だと感じる。

園遊の2つの園遊公園以外でどのような公園であれば園遊公園として認められるのかを考える必要があると感じた。

園遊公園の運営を目指すのであれば、テーマ性のあるイベントや、園遊の難しさを実感したが、観光に来る人が園遊公園で楽しむような特徴的なもの、積極的に言えばテーマパークのようなものを持つていくことが、沖縄においては「普天間公園」というブランドが生まれていくのではないかと感じる。

園遊公園は、沖縄の「財産」である「琉球」等を活かすことにより、魅力的な公園として整備されているということを感じて印象に残った。

植物管理センターは人が少ないが、一番身近に訪れる場所であると思う。公園を歩くには、まずそのよな理由で、どのような公園をつくりたいのかというビジョンがないといけぬというところが、今回の視察でよく分かった。

音楽と合わせた噴水など、公園設備の一つひとつについて個性があり、それが魅力の一つになり出している。

音楽と合わせた噴水など、公園設備の一つひとつについて個性があり、それが魅力の一つになり出している。

音楽と合わせた噴水など、公園設備の一つひとつについて個性があり、それが魅力の一つになり出している。

園遊公園を誘致するために「地元がどのようなイメージを持てるかが重要」。「国会議員を動かす位のものが好ましい」といった話を大事にした。公園を園遊にするためのパピールの方法を検討する必要がある。

園遊公園として設定されるために、地権者と市民が一丸となって、どのような事業を取り入れるかについての共通認識を築く必要がある。

若手の会を各の地権者・市民・周辺地域の人々の呼びかけが必要だと思う。

不可能ではないと思うが、国・県・国民の理解を得ることが重要である。

園遊公園は海洋博覧会があったものの、普里城公園も歴史があるものであり、園遊運りもまた、普里城公園が持つ観光地となつたところである。普天間の跡地は何か新しいイメージが必要である。

園遊公園の可能性は高い印象を受けたが、セロではなく、自分たちの努力が必要だと感じた。

